

会 報



©慶応義塾

公認会計士 三田会

会報

公認会計士三田会

目 次

ご挨拶	1
公認会計士三田会会長／山田辰巳	
公認会計士三田会の皆様へ	2
商学部長／榊原研互	
監査法人での1年を振り返って	3
平山拓也	
会計士としてのこれから	4
川西祐輔	
監査人としての価値	5
野村孟弘	
自らの可能性を信じて - 会計士としてのスタート -	6
清水亮	
公認会計士試験の状況	7
連続41年間、合格者数首位を堅持	
公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表	8
総会／春季研修会／新人歓迎会／秋季研修会 報告	9
ゴルフ報告	10
役員一覧	11
公認会計士三田会・会則	12



ご挨拶

2015年3月に、後藤順子前会長の後を継いで、公認会計士三田会会長に就任しました。会長就任に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

私は、昭和51年に商学部を卒業しました。卒業後は、一般の事業会社で17年過ごし、公認会計士の資格で仕事を始めたのは、40歳になってからでした。そのような経緯から、監査業務での経験は限られておりますが、一般事業会社や国際会計基準審議会 (IASB) の理事としての10年の経験など、少しユニークな経験をしてきております。

すでに言われて久しいことではありますが、社会のニーズの多様化に伴って、公認会計士に対する社会の期待は、変化しております。公認会計士の業務の中心を占めるのが、資本市場が有効に機能するために役立つ監査業務であることは変わらぬ事実だと思いますが、このようななか、アドバイザーや税務のみならず、中立な立場を堅持できる職業専門家としての公認会計士へのニーズは多様化しながら増大しています。

このようななか、これまで20数年にわたって公認会計士試験の合格者数のトップを維持してきた慶應義塾大学は、日本の公認会計士制度の発展に重大な責任を負っていると言っても過言ではないと考えます。事実、塾出身の公認会計士は、社会の多様な分野で活躍しています。このような多様な経験を持ち、現役で活躍する塾出身の公認会計士が集い、

お互いを知り、情報交換をし、そして、懇親できる場として、公認会計士三田会は役割を果たしてきました。これまで、多くの諸先輩が、公認会計士三田会の活動に参加し、三田会の存在感を高めてきました。活動が停滞していた時期もありました、ここ10年ほどは、多くの若い公認会計士の皆さんの参加も得て、毎回集まる会員の数も150名を超えています。

私は、監査業務のみならず多様な役割に就いている塾出身の多くの公認会計士が、1つの場所に集い、意見を交換し、お互いに刺激し合うことによって、新たな可能性を見出していける場としての機能を改めて認識し、公認会計士三田会が、そのような役割を果たして行けるようにしたいと考えています。春と秋に開催する年2回の集いには、ぜひご参加いただきたく思います。皆様のご協力をお願い申し上げます。



公認会計士三田会の皆様へ

公認会計士三田会の皆様には日頃より慶應義塾に対して多大なご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。とくに、公認会計士を目指す学生たちへの親身なご指導とご助言に対し、心より御礼申し上げます。

おかげさまで、平成27年度も120名を超える慶應義塾出身者が公認会計士試験に合格し、大学別合格者数において41年連続で首位の座を守ることができました。合格は本人たちの努力の結果であることは言うまでもありませんが、こうした輝かしい実績を維持し続けることができますのも、諸先輩方のご活躍が後進たちの目標となり励みになっているからであり、また皆様から適切なご助言やご指導をいただいているお陰かと存じます。

また、商学研究科修士課程の会計職コースをご担当いただいている皆様には、お忙しい中をご出講いただき、受講生に実務の最前線に触れる貴重な機会を提供していただき、誠にありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

私の専門は経営学ですが、大学院の授業ではしばしば会計職コースの学生を相手にしますし、また会計大学院ではありませんが、塾内・塾外の専門職大学院で教えることもあります。その際学生たちにいつも言うことは、専門職(=プロフェッショナル)とは何かをよく考えてほしいということです。

プロフェッショナルという言葉は、今日では「ある分野について専門的な知識や技術をもっている人」という広い意味で用いられています。しかしそれは、スペシャリストやエキスパートという意味での単なる専門家ではあ

りません。むしろプロフェッショナルとは、英語のその動詞形である「profess=宣誓する」が示すように、元々はその職に就くにあたって行動規範を宣誓しなければならないような特別な職業を意味していました。中世では医者と法律家と聖職者しかプロフェッショナルと認められていなかったというのはよく知られた話です。

たとえば、医者になるために欧米では「ヒポクラテスの誓い」を立てるのが慣わしとなっています。医者が、自らの持つ専門的な知識や、医療を通して知りえた情報を悪用すれば、患者のみならず社会に多大な不利益をもたらすことになりますので、そうならないために、医者としてわきまえるべき職業倫理を誓っているのです。

つまり、本来のプロフェッショナルとは、単に高度な知識や技術を有するだけでなく、自らの従うべき職業倫理を自覚的に宣誓し、それに基づいて自らの行動をコントロールできる自律的な人間を意味しているということです。自律的というのは、自由であるけれども他方で責任も伴うということであり、そしてこのことはまさに、福澤諭吉の言う「独立自尊」に通じるものでもあります。

商学部・商学研究科では、福澤諭吉の精神を受け継ぎつつ、知識や技術のみの教育に偏ることなく、真にプロフェッショナルと呼べるような人材の育成を心がけていきたいと思っています。



平山 拓也

平成20年商学部卒

監査法人での1年を振り返って

初めまして。2008年商学部卒、平山拓也と申します。私は、2014年度に公認会計士試験第二次試験に合格し、現在ようやくあざ監査法人での勤務2年目をスタートさせました。自己紹介を兼ね、まずは会計士を目指そうと思った経緯をお話しさせて頂こうと思います。

私は、ビジネス全般に興味があり、大学生時代はマーケティングを専門とするゼミへ所属しておりました。楽しくマーケティングを勉強する一方で、より広く企業全体を見渡せる会計に対しても興味を有していました。当然公認会計士という資格に興味を持ったものの、実際に受験するには至りませんでした。大学卒業後は、ベンチャー企業にて会社が有する債権を保全する商品の営業を行っておりました。企業経営者や経理責任者等へ提案型の営業をする事が多かったのですが、会計の知識が乏しく、自分が売っている商品の利点もきちんと把握できていない様な中で、生涯に渡り能力を高める事が出来、より専門的な知識を以て誰かの役に立てるような人材になりたいと思い、退職し公認会計士を目指す事と致しました。

1年間監査に従事し、公認会計士という職業について主に2つの事を感じています。まず感じている事は、公認会計士という資格が持つ可能性の広さです。街を見渡してみれば、人の活動殆どにお金がかかっている、そこには必ず会計の必要性があると思います。公認会計士は、会計・監査の専門知識を軸として、企業・個人を問わず様々なサービスを提供する事が出来ます。このような可能性を考えると、公

認会計士を目指して本当に良かったと考えています。

二つ目に感じている事は、監査業務の面白味と社会的責任の重さです。昨今も企業の不適切な会計処理が少なからずニュースとなっています。そうした報道を耳にする度に、自分が毎日携わっている仕事の意味を考えさせられます。会計不正が行われれば、多くの方が不利益を被り、それは企業自身にとっても同じだと思います。日々の業務にしっかり取り組む事が社会の期待に直結すると考えると、とても面白味があり、遣り甲斐のある仕事だと感じています。

会計士としてスタートを切ったばかりであり、学ぶべき事が沢山あると考えています。公認会計士三田会という素晴らしい機会を利用して、諸先輩方の貴重なお話を様々お伺いしたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



会計士としてのこれから

初めまして、新人世話人を拝命しております川西祐輔と申します。私は生まれこそ大阪府ですが、その後はずっと東京で育ってきました。番町小学校⇒麹町中学校⇒青山高校・アメリカ留学に学び、慶応義塾大学総合政策学部へ進学、その後2014年の論文式試験に合格しPwCあらた監査法人へ入所しました。現在は、製造(ハイテク・情報・通信・エンターテインメント)部で監査業務に従事しております。

私が、公認会計士の資格を目指そうと思ったきっかけは、学部時代に就職活動の一環としてあらた監査法人の新卒採用の説明会に参加したこと。学生時代に海外で生活していたこともあり、将来はグローバルで活躍できる人材になるべく主に外資系コンサルや証券会社等に就職活動をしていました。時はリーマンショック後の混乱の中、就職活動は前年までとは一転かなり厳しい状況でした。その時に、会計・監査の専門家になりグローバルで活躍することができれば自分のバリューを高めることができるのではと公認会計士の魅力を感じました。その後、試験合格を果たして念願のPwCあらた監査法人へ入所し、今は外資系クライアントの監査にも携わらせていただいております。

監査の現場に入って業務に従事するようになり1年半ほど経過しますが、会計・監査はまだまだ難しいと思うことだらけです。それは、会社によって会計システムや内部統制などは異なりますし、適用する会計基準が日本基準なのか米国基準なのかまたはIFRSなのか

によって監査上論点が異なるからです。これから、IFRS適用会社は益々増加することを鑑みると国際的な会計基準を学び、そして知識のアップデートを続けなければならないと日々感じております。

趣味の話になりますが最近ゴルフを始めました。多趣味な私は、これまで水泳、ボーリング、釣り、スキー・スノーボード、温泉、海外旅行、車等にはまっておりますが、ゴルフはまた格別な出会いでした。とはいえ、コースにはまだ一度しか出たことは無く、もっぱら打ちっぱなしでストレス発散をする程度です。ゴルフはまず、ボールに当てることに苦勞し、そしてまっすぐ飛ばすことにはもっと苦勞しています。腕の角度や重心の位置の指導を受けて、とても考えさせられるスポーツだなどつくづく思います。ゴルフは年を取ってもできるスポーツですし、またゴルフを通じた交流もこれか楽しみにしております。

最後になりますが、日頃よりお世話になっております先輩方、並びに会報を取りまとめてくださっている方には本当に感謝しております。また、会報をお読みの皆様の益々のご健勝、ご活躍を心よりお祈りいたします。



野村 孟弘

平成24年法学部卒

監査人としての価値

初めまして。平成24年法学部政治学科卒、野村孟弘と申します。

現在は、あずさ監査法人で主に国内、国際の監査業務に2年目のスタッフとして従事しております。三田会の皆様には様々な形で大変お世話になっており、今回このような機会を頂いて大変光栄です。

平成21年4月に公認会計士の勉強を始めるも大学生活を謳歌してしまい、長い道のりを経て平成26年8月の論文式試験によりようやく合格することができました。大学卒業から3年、26歳の時でした。

そもそも自分が慶應義塾に関わりを持ったのは大学入学からでした。祖父と父親が税理士として開業しており幼少から公認会計士として働く姿に憧れを持っていた私にとって、会計士合格者数のトップを維持し続ける名門「慶應義塾大学」を学び舎とできたことは大きな誇りとなっております。

入学以降、三田会の方々には公私共にお世話になっており先輩たちの支えが無ければ今の私は無かったでしょう。

さて、監査業務に従事し始めて1年が経ちますが、ようやく最近になって「証券市場の番人」たる監査人としての責任の重さを実感できるようになりました。仕事を初めて間もない頃は与えられた仕事を精一杯こなしていくのがやっとで専門的な判断を行うことなどほとんどありませんでした。ところが最近ではクライアントから会計的な処理の相談を受けることも増えてきました。未だ若輩者であるため高度な判断を要する相談ではありませんし、結局は後程チームに持ち帰って

上司の意見を仰いでしまいますが、その場で一人の専門家として回答するときその責任の重さを痛感します。そして、この瞬間が同時に私にとって最もやりがいを感じる瞬間でもあります。クライアントに納得して頂いたとき、御礼を言われた時にプロフェッショナルとして貢献できたことに喜びを感じます。この瞬間のために、クライアントに適時適切なアドバイスを行い、時には批判できるように専門知識に磨きをかけていきたいと考えています。

しかし昨今、変動が激しい証券市場において公認会計士に求められることは単に会計の専門家であることだけではなく「会計+ a 」の力だと考えています。その a が語学力なのか、ITスキルなのかは人それぞれですが、公認会計士として価値は今後「会計以外に何ができるか」、そこに比重が置かれていくのではないのでしょうか。

自分自身まだその+ a が何なのかは模索中ですが、「野村にだから頼みたい」といってもらえるようなスキルを身に着きたい所存です。

とはいうものの、これらのことは健康あってのことです。

仕事柄運動不足になりがちですので週末は体を動かすようにしております。

大学時代に始めたテニスを運動不足解消として続けておりますので三田会の皆様、お好きな方がいらっしゃいましたら是非一緒に汗を流したいものです。

それでは皆様がいっまでも健康で、存分の活躍をされますようお祈り申し上げます。



自らの可能性を信じて -会計士としてのスタート-

はじめまして。2014年に会計士試験に合格し、昨年新日本有限責任監査法人に入所いたしました、清水 亮と申します。

私は、2007年に慶應義塾普通部に入学し、その後慶應義塾高等学校を経て現在は慶應義塾大学経済学部3年生として日々大学生生活を送っております。

私は中学時代に歴史小説に没頭した時期がありました。きっかけは、中学受験を経て歴史というものに魅力を感じた私に、祖父が『三国志』という中国の歴史小説を勧めてくれたことでした。『三国志』に熱中していく中で、私は諸葛亮孔明という軍師に憧れを抱きました。思い返せば、この憧れが会計士試験を目指すきっかけになったのかもしれませんが。高校の頃、会計士の仕事を調べる機会があり、そこで目にしたのは「会計士とは会社の軍師のような存在」、という言葉でした。経営者を支え最善の道へと導いていく、そのような姿を思い描き私は会計士を目指しました。

会計士試験に合格し、身の回りで一番の変化は何と言っても多くの機会を得ることができたことです。会計士試験に合格したことで、公認会計士の方々とはもちろんのこと、それ以外にも多くの方とお会いできる機会が増えました。また現在では全国学生会計連盟という、大学の垣根を越え、会計士志望者の交流を深める団体の幹事もやらせていただいております、会計士業界を盛り上げるべくイベントの企画等普通ではなかなかできない貴重な経験の場も得ることができました。私は大学生活の前半を会計士試験の勉強にあ

てていたこともあり、人との交流やチームで掲げた目標を遂げる、ということをしていませんでした。監査ではチームでの作業になり、チームワークやコミュニケーションといった能力が必要であると先輩に教えていただいていたものの、イメージが湧かず、将来に対しての不安も募りました。しかし、会計士試験が終わり様々な場面に直面して、自分に与えられる機会の多さ、そして可能性の大きさに驚かされました。

最後になりますが、9年間慶應義塾の中に身を置き、様々なフィールドでご活躍されている先輩方を見て、そしてその繋がりや強さを目の当たりにして、私も素晴らしい環境に身を置くことができたのだと実感しております。まだまだ未熟ものですが、いただいた機会を無駄にしないよう常にチャレンジをし続け、自らの可能性を更に広げ社会に貢献できる人材になれるよう日々精進して参りたいと思います。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況 平成27年度》 —— 連続41年間、合格者数首位を堅持 ——

平成27年公認会計士試験は、平成27年11月13日に合格者が発表されました。

平成27年の公認会計士試験は、願書提出者総数10,180人、論文式受験者数3,086人、最終合格者数1,051人となっています。合格率は10.3%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は123人であり、2位早稲田の91人に32人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から41年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。

今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【平成27年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	10,180人(前年10,870人)
短答式合格者数	1,507人(前年1,405人)
最終合格者数	1,051人(前年1,102人)
合格率	10.3%(前年10.1%)

【主な大学の合格者数(公認会計士三田会調べ)】

慶應義塾123名、早稲田91名、中央64名、明治56名、同志社33名、関西29名、
関西学院28名、神戸28名、東京23名、専修22名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

年次	順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	1 0 位
1	昭和45年度 (1970)	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶應義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度 (1972)	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度 (1973)	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度 (1974)	中央 65	慶應義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	-
6	昭和50年度 (1975)	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	-	-
7	昭和51年度 (1976)	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度 (1977)	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度 (1978)	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度 (1979)	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度 (1980)	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	-
12	昭和56年度 (1981)	慶應義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度 (1982)	慶應義塾 26	早稲田 18	明治 16	横浜国立 14	中央 11	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度 (1983)	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度 (1984)	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度 (1985)	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度 (1986)	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度 (1987)	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度 (1988)	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度 (1989)	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度 (1990)	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成3年度 (1991)	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度 (1992)	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度 (1993)	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成6年度 (1994)	慶應義塾 140	早稲田 102	中央 57	一橋 37	東京 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度 (1995)	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成8年度 (1996)	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	一橋 38	東京 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度 (1997)	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度 (1998)	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度 (1999)	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 23	日本 12	立教 11
31	平成12年度 (2000)	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度 (2001)	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度 (2002)	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度 (2003)	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	京都 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成16年度 (2004)	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	一橋 56	京都 50	立命館 40
36	平成17年度 (2005)	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成18年度 (2006)	慶應義塾 224	早稲田 146	東京 73	一橋 69	中央 64	明治 55	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成19年度 (2007)	慶應義塾 411	早稲田 293	中央 150	東京 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 73	立命館 71
39	平成20年度 (2008)	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度 (2009)	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成22年度 (2010)	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度 (2011)	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度 (2012)	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成25年度 (2013)	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立命館 26
45	平成26年度 (2014)	慶應義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西 29	関西学院 28	法政 27	神戸 27
46	平成27年度 (2015)	慶應義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 56	同志社 33	関西 29	関西学院 28	神戸 28	東京 23	専修 22

第39期総会

公認会計士三田会総会

平成27年3月24日午後5時30分から公認会計士三田会第39期総会を開催しました。第39期の事業報告、会計報告を行い、第40期事業計画及び予算を承認しました。

平成27年春季研修会

総会に続き行われた春季研修会では、日本公認会計士協会理事 茂木 哲也君(平成2卒)を講師として迎えました。「新しい領域(特別目的・準拠性)の監査」をテーマに、研修を行いました。



平成27年新人歓迎会

続いて、2015年新人歓迎会を開催しました。慶應義塾大学商学部長金子隆教授、経済学部長中村慎助教授、商学部園田智昭教授、同友岡賛教授、同高久隆太教授、総合政策学学会田一雄教授をお迎えして、平成26年合格者をお祝いする新人歓迎会を開催しました。出席者は170名でした。

公認会計士三田会秋季研修会

平成27年10月21日に慶應義塾大学医学部長・生理学教室 教授の岡野栄之先生を講師としてお迎えして「IPS細胞が変える未来の医療」をテーマに講演をいただきました。

ES細胞、IPS細胞の機能や実際の患者への応用について、私たち素人にも分かり易くご講義頂きました。また、慶應医学部の最新の取り組みについても詳しく知ることができて、大変有意義な研修となりました。



早慶戦ゴルフ

平成27年9月5日に千葉カントリークラブ梅郷コースでゴルフ早慶戦に出陣しました。

早稲田のエース今野博選手、堀内三郎選手の好調の前に慶應のプレーヤーが総崩れしてしまい、これで3年続けて負けてしまいました。大学野球部の戦績に比例しているような気がするのは筆者だけでしょうか。大学野球部にも頑張ってもらいたいです。

大学対抗ゴルフ十月会

平成27年10月10日に第28回十月会が軽井沢72で開催されました。

今年は少数精鋭で臨み、グロスの部優勝を狙っていましたが、好調早稲田の前にあえなく敗れ去ってしまい、そのショックで、ネットの部8位、グロスの部は7位とここ数年なかった成績に終わりました。そんな中、岡田貴子君が慶應選手中2位の好スコアをマークして来年へ明るい材料となりました。

来年は大勢の選手で覇権を奪回しましょう。



役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S51年卒	山田 辰己
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S59年卒	大塚 敏弘
副会長	S61年卒	関川 正
副会長	H8年卒	吉川 高史
副会長	H18年卒	米田 恵美
幹事	S47年卒	河原 茂晴
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S48年卒	桃崎 有治
幹事	S51年卒	新田 誠
幹事	S52年卒	小見山 満
幹事	S52年卒	池上 玄
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S52年卒	山崎 博行
幹事	S53年卒	沼田 徹
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	森 公高
幹事	S55年卒	永田 高士
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S56年卒	澤田 尚史
幹事	S57年卒	関口 弘和
幹事	S57年卒	篠原 真
幹事	S58年卒	上林 三子雄
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	志村 さやか
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 美晃
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友紀子
幹事	S61年卒	加藤 達也
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 要介
幹事	S62年卒	若林 健太
幹事	S62年卒	尾立 源幸
幹事	S62年卒	川上 尚志
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	佐藤 裕紀
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴子
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	H11年卒	菅野 雅子
幹事	H11年卒	阪田 大門
幹事	H11年卒	吉田 慶太
幹事	H11年卒	北澄 和也
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H3年卒	志賀 森子
幹事	H5年卒	荒張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古内 和明
幹事	H5年卒	山邊 道明
幹事	H6年卒	菅谷 圭子
幹事	H6年卒	松本 健明
幹事	H6年卒	御厨 健太郎
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曾宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H7年卒	森田 健司
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	難波 隆豪
幹事	H7年卒	北村 崇
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修

役職	卒業年度	氏名
幹事	H8年卒	淡島 國和
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	廣野 清志
幹事	H10年卒	江 幡 淳
幹事	H10年卒	間宮 光健
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H14年卒	黒澤 久美子
幹事	H15年卒	根建 栄
幹事	H15年卒	吉田 勇太
幹事	H15年卒	荻野 尚武
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	藤本 ひかり
幹事	H15年卒	清 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	和田 拓郎
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	上平 洋輔
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彩子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	柚野 慶二
幹事	H16年卒	依田 知明
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H17年卒	門田 美由紀
幹事	H17年卒	洪佐 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	高梨 良紀
幹事	H17年卒	渡辺 一生
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 恵
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H19年卒	今井 健太
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	清水 陽一郎
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	佐藤 拓路
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	澤崎 萌
幹事	H22年卒	清水 瞬
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	芝 由里子
幹事	H23年卒	田中 隆寛
幹事	H23年卒	高野 阿弓
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	坂本 修一
幹事	H24年卒	富取 祐香
幹事	H24年卒	榊原 大樹

役職	卒業年度	氏名
幹事	H24年卒	徳田 華子
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	荳澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	細野 光史
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	荻野 創平
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	濱田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	山縣 奈央
幹事	H25年卒	浅見 理紗子
幹事	H25年卒	上條 有佳里
幹事	H26年卒	浦山 太貴
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔斗
幹事	H26年卒	福田 彰和佳
幹事	H26年卒	古川 領亮
幹事	H26年卒	副島 慎太郎
会計監事	S55年卒	市村 清
会計監事	H2年卒	茂木 哲也
年度世話人	S52年卒	小見山 満
年度世話人	S52年卒	池上 玄
年度世話人	S52年卒	佐藤 行正
年度世話人	S52年卒	山崎 博行
年度世話人	S62年卒	安藤 武
年度世話人	S62年卒	要石 博之
年度世話人	S62年卒	上倉 要介
年度世話人	S62年卒	若林 健太
年度世話人	S62年卒	尾立 源幸
年度世話人	S62年卒	川上 尚志
年度世話人	H9年卒	古賀 智彦
年度世話人	H9年卒	篠崎 友宏
年度世話人	H9年卒	三根 大介
年度世話人	H9年卒	廣野 清志
年度世話人	H19年卒	幡野 裕明
年度世話人	H19年卒	今井 健太
新人世話人	H20年卒	平山 拓也
新人世話人	H22年卒	川西 祐輔
新人世話人	H24年卒	野村 孟弘
新人世話人	H25年卒	信田 淳
新人世話人	H27年卒	吉田 康太郎
新人世話人	在学中(4年)	野村 航洋
新人世話人	在学中(3年)	三浦 優一朗
新人世話人	在学中(3年)	清水 亮
実行委員	H21年卒	豊田 裕文
相談役	S26年卒	向山 清志
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S34年卒	森重 榮
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S41年卒	石井 清之
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富治
相談役	S45年卒	山田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶春
相談役	S56年卒	後藤 順子

公認会計士三田会・会則

制定 昭和52年 9月 1日
 改正 昭和55年 1月21日
 改正 昭和58年 1月10日
 改正 昭和61年 1月17日
 改正 平成15年 1月29日
 改正 平成15年12月 4日
 改正 平成20年 1月30日
 改正 平成23年12月14日

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、公認会計士三田会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

(事 務 所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
- 2、内外の資料の調査、研究
- 3、業務情報の交換
- 4、会報その他刊行物の発行
- 5、その他前各号に附帯する事業

第2章 会 員

(会 員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章 役 員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相 談 役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。

- 2、幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選任)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章 総 会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章 会 計

(会 費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。

- 2、会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。

有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附 則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附 則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

(附 則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。



www.cpa-mitakai.net

©慶応義塾

公認会計士 三田会会報【第40号】

(平成28年3月1日発行 昭和53年1月1日創刊)

編集発行:公認会計士三田会 佐藤裕紀 渋谷寿彦

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-5-1 霞が関IHFビル3F

佐藤裕紀公認会計士事務所内

電話:03-6852-6852 FAX:03-6852-6853 E-mail:sec@keiocpa.com